

2015年2月のオホーツク海の海氷域面積が過去最小

2015年2月のオホーツク海の海氷域面積は、2015年2月10日以降、この時期としては1971年の統計開始以来最小で推移しています。

オホーツク海では、2014年11月以降、北部を中心に気温が平年より高く経過したため、海氷域面積はおおむね平年より小さく経過しました。

1月から2月にかけては、平年では海氷域が拡大する時期ですが、今季は海氷域の拡大ペースが遅く、更に2月に入り海氷域面積が減少しました。そのため、2015年2月10日以降の海氷域面積は、この時期としては1971年の統計開始以来最小で推移しています。2月15日の海氷域面積は、50.19万平方キロメートルで、平年（101.61万平方キロメートル）の半分以下となっています（別紙 図1、図2）。

海氷域面積が減少した要因として、2月10日から15日頃にかけて、千島近海に低気圧が停滞し、オホーツク海に暖かい東よりの風が入りやすく、海氷が西側に吹き寄せられたこと、海氷が融解したことが挙げられます（別紙 図3）。

気象庁ホームページの「海洋の健康診断表」では、オホーツク海の海氷に関する最新の状況と予想を発表していますので、あわせてご利用ください。

「海洋の健康診断表」海氷に関する診断表、データ

http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index_seaice.html

本件に関する問合せ先:

地球環境・海洋部 海洋気象情報室
電話 03-3212-8341(内線 5156)

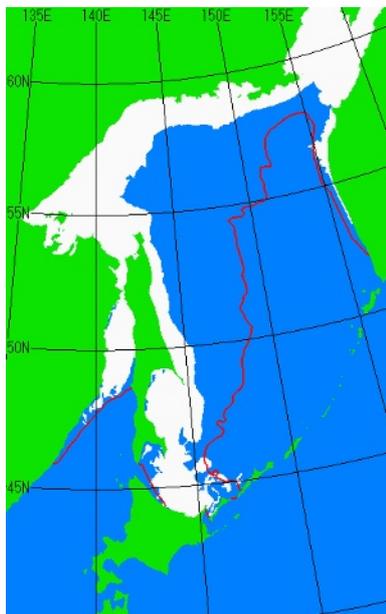


図1 2015年2月15日のオホーツク海の海氷域(白い部分)
赤線は平年の海氷縁の位置を示す。

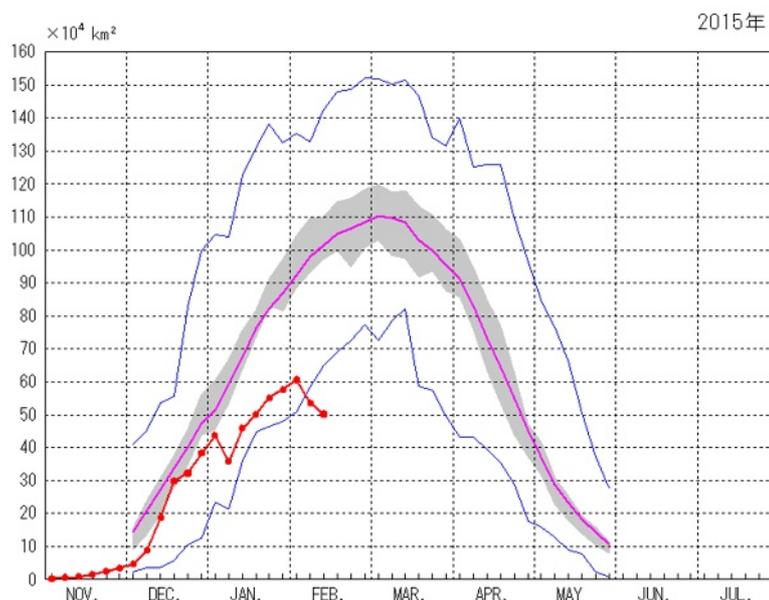


図2 2014/2015年海氷期のオホーツク海の海水域面積の推移
赤線は今季の海水域面積、ピンクの線は平年の海水域面積、影の部分
は「平年並」の範囲、青線は過去最大・最小を示す。
統計開始は1971年。



図3 オホーツク海の海水域面積が減少する要因の模式図